

ほっとNEWS

2009.2.5発行
 発行人 医療法人社団和恒会
 奥市広白石4丁目7番22号
 TEL (0823)70-0555

「ふたばの街」新春座談会

あけましておめでとうございませう。
 本年もほっとNEWSを
 よろしくお願いいたします。

昨年、医療法人社団和恒会には、新しく高齢者複合福祉施設「ふたばの街」がオープンしました。そこで今年初の新年号では、ふたばの街で新春座談会を開催することになりました。

司会 あけましておめでとうございませう。

昨年12月にオープンしたばかりですが、オープンしてからの今日までのことと、これからの抱負などを聞かせていただければと思います。

オープンして1か月が過ぎました。が、色々戸惑うことも多かったのではないですか？

行成 すべてです。(笑)

大原 戸惑うことばかりでした。(笑)

切川 私は、管理者をさせてもらうのが初めてで、認知症の方にどのように楽しんでもいただくか・・・どうやって楽しんでもらえるのか、来てよかった、楽しかったと言ってもらえるプログラムをスタッフみんな考えてはたね、あ、でもこれは戸惑いではななくて、これまでやってきたことですね。(笑)

野村 グループホームは入所なんです、やはり一番心配したのは、高齢者の

方がグループホームに入所されて、環境が変わることで少なからずストレスを抱えられたようで、中には体調を崩されたり、やはり入所サービ

スには、心身、心と身体の両方のケアが大切なんだなあと思感しました。私たちでも新しい環境に慣れるのはとても大変なことですからね。ここにずっと住んでいただくわけですから。

大原 そこはハイツも同じで、ハイツは施設ではなく在宅、マンションと同じなんですけど、365日24時間スタッフが

いる。そこでヘルパーを使ってもらって生活をしていただく。施設と在宅との違いをなかなかうまく説明できなくて、理解していただくのが大変でした。

児玉 ハイツが他の賃貸マンションと違うのは、24時間365日緊急対応が迅速にできるように、スタッフが常時いることなんです。

大原 病院が併設にあるのが大きかったと思いますよ。

行成 小規模多機能などは、なかなかスタッフにも馴染みが少ないサービスで、まずは内容を知ってもらうことから始めたんです。

児玉 ふたばの街は、いろんなタイプの施設が同じ建物の中にある、そのタイプの違う施設が密に協力し合わないといけない。そこが一番大事な

ことですから、それが上手くいくようにサポートして

く。そんな感じでスタートしたような気がします。

馬越 複合施設

だからこそ、

まず各事業の管理者との連携が第一ですよ。そしてスタッフの協力。協力してくれる人がいないとサービスは成り立たないので、そこが一番だと思います。でもそこが一番難しいんです。人間関係ですから。(笑) スタッフ全員が同じ目標を持ち、どこかの部署で問題が起きたら、みんなで考える。自分の所さえよければいいというのではなく、みんなで考えて、改善していく。それが連携の基本だと思うんです。

野村 そうです。たとえばグループホームの利用が難しくなっても、上のハイツの方に紹介させていただいたり、あと、一緒に料理教室を開いたりも。外出行事とかも一緒に出来るらしいですね。

切川 多目的利用ができますよね。

司会 ふたばの街のように、色々な種類の複合施設は、全国的にも珍しいと思



ますが、今までの施設とふたばの街との違いはなんでしょうか？

馬越

法人には病院や老人保健施設などもあるんですが、その中でもハイツの役割は「終のすみか」だと思います。人生の最後まで利用していただける生活の場所ですね。介護サービスを充実させるだけではなくて、一生住んでいただくわけですから、それだけ価値のある生活を提供していただくことが、私たちの役目ではないでしょうか。

切川 1〜3階までのサービスは地域密着型ですから、少人数制なんです。少人数だからこそできる、その人にあったケア、その人にあったプランを立てられるのが一番のメリットだと思います。その人の人の時間に合わせてゆつくりと時間がとれる、その人のための時間が沢山あります。365日開いてますから。(笑)

野村 少人数だから、アットホームですよね。

行成

小規模多機能居宅介護もグルーブホームやデイサービス同様、地域密着型ですから、今後は地域推進会議を行って地域の方との交流の場を持ち、地域の自治会の行事に参加させてもらったりしたいと思っています。法人のグループホームでもう行っているのとは違います。

司会 では最後に、今年の抱負をお願いします。

大原 今年はハイツの良さを多くの人が知ってもらって、入所される方や家族との信頼関係を築いていくことを第一に頑張りたいと思います。

行成 まずは小規模多機能型通所介護というものを沢山の人が知っていただけるよう努力していきたいです。ただ、小規模多機能は決まった地域の人が利用できるもので、他の地域でサービスの必要の人がいたら、他の事業所とも連携して行きたいと思っています。

切川 私は、認知症ケアサービスをもっと多くの人に知ってもらって、利用者の皆さんに生きがいを持った生活をしていただき、共に楽しみを発見していきたい。そのため私たちができることは何なのか探していきたいと思います。

野村 グループホームでは、病気をしないで、健康で充実した生活を送っていただきたいです。外出の機会を沢山増やしていきたいと思えます。スタッフと利用者が一体となって生活していきたい。特にお料理には力を入れています。

司会 本日は、どうもありがとうございます。



◎座談会に参加いただいた方

馬越 律子 ふたばの街 施設長

児玉 正紹 ふたばの街 事務長

切川美奈子 認知症通所介護ふた

ばの集い 管理者

行成 洋 小規模多機能居宅介護ふたばセンター

野村 文子 グループホームふた

ばホーム 管理者

大原 真理 ふたば訪問介護事業

所白石 管理者

◎司会

本紙編集部



第19回 Let's cooking

あなたの胃は元気ですか

明けましておめでとございませう。

年末年始の食べ過ぎ飲み過ぎを後悔し、閃々としている方も少なくないと思います。胃にトラブルがある時は食欲もなくなり、食べたくないからといってそのまましていると体力まで落ちてしまい、症状を回復するのも困難となってきます。そんな方にお勧めしたいのが今が旬の大根。大根には消化を促進してくれるジアスターゼという消化酵素が含まれています。有害物質の排出効果があるので暴飲暴食で疲れ気味の胃を優しくケアしてくれます。但しジアスターゼは熱に弱く加熱すると作用が損失してしまいます。効果的に食べるのは即し大根、大根の搾り汁、サラダなどにするのが良いでしょう。ちよっと食べ過ぎた方は是非大根を食べて体調を整えましょう。

ちよっと一言大根談義。

一、春の七草の一つ(スズシロ)

二、ガム予防

発ガン物質を分解するオキシタ

ーゼが含まれている

三、脳卒中予防

皮に含まれるビタミンPは毛細

血管を強くする働きがある

四、肌荒れ予防

葉に含まれるビタミンA、Cが

豊富、ニキヒ、吹き出物に良い

大根は捨てる所がありません。上手な調理方法で健康を維持しましょう。

管理栄養士 佐々木由美子

鹿児島紀行

医療法人社団 和恒会

理事長 森川 龍一

昨半夏に鹿児島に旅した。

広島西飛行場で午前9時過ぎにコメューター航空の小さなプロペラ機に乗った。既に廃止が決まっているからか、建物には到る所老朽化がみられた。約一時間のフライトで鹿児島空港に着いた。これで5度目の鹿児島行きである。しかしこれまで、じっくりと史跡を見て廻らなかつたので、今回はいろいろ

な想いをめぐらせて史跡を廻りたいと思った。又、食の宝庫鹿児島を堪能しようとも思っていた。

鹿児島空港は中心部から離れており、広島空港同様、リムジンバスで40分かつて、鹿児島島の中心部に着いた。西郷隆盛が、最後の場所になった洞窟の上にある城山観光ホテルに着いた。丘の上であり、真正面から雄大な桜島が見える。

鹿児島は、なんといっても、西郷さんと桜島、そして焼酎というキーワードで集約される土地柄であると思つた。早速同ホテルで黒豚ト

ンカツと、名物の酒寿司を食べ、鹿児島からタクシーで約一時間の知覧に行った。知覧は二度目であるが、前回は子供が小さかつたので、ぜひとも又知覧に連れて来たかつた。

知覧の「特攻平和記念館」に行く道の両端には整然と何百本もの灯籠が並んでおり自然と厳肅な気持ちになっていく。知覧特攻記念館に入る前の道は、春には桜が満開となり、桜のトンネルを通してその記念館に行く時は、みごとな荘厳さだとタクシーの運転手さんから聞いた。

最近、平和の鐘をつき、それから特攻隊員が出撃の前日に過ごしたという三角兵舎を見た。林の中で半分地中に埋まり、とても狭く、敵機に見つからないようにしてある。しかし、その兵舎の中に入ってみると、出撃前日に裸電球の下で遺書を綴つた二十歳前後の若者の心情を考え、胸がつかまる思いがした。そんな無謀な作戦とは言えないことを考へた「昭和」という狂つたような時代や軍幹部に無性に腹が立つた。

記念館に入ると遺影や遺書が展示されて、多くの来館者は、ただ無言で涙を流している。私もその遺書のいくつ

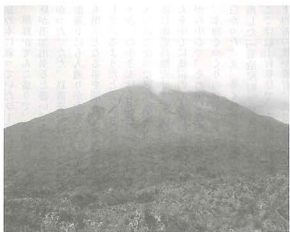
かを説めば、ただ涙がこぼれるのみであつた。20才前後の遺影はみんな「いい顔」であり、遺書の文章はすばらしく、又文字がきれいなには驚いた。また私が読んだ遺書は全て「お母さん」という文章で「お父さん」という文章はなかつた。結局は男はお母さんなのだ改めて痛感した。説明のビデオや、遺品、それに無残な形となつた戦闘機が飾られてあつた。私の娘ももうすぐ16才、やつと意味が分かるようになってゐたのか、「早く帰ろう」と言つても、ずっと遺書や説明を熱心に読んでいた。帰り際、回想ノートをバラバラとめくると、ヘタなイラスト、幼稚で拙い文章、これが同じ年代の現代の若者かと、その差異に衝撃を受けた。日本人は、こんなにも馬鹿になつたのは何故にと考へ、日本の将来が案

じられた。それから、記念館からの帰りに、タクシーから武家屋敷の整然とした街並みを見て、当時の若い武士やその息子の凜とした姿が思い出されるような気持ちになつた。最後に映画「ホテル」の舞台となつた「富屋食堂」(復元)に入つてみた。この食堂には、若い特攻隊員が集い、おかみさんを「お母さん」と慕つていた。若い隊員の一人在、自分が死んだらホテルとなつて戻つてくれると言ひ、その通りにホテルが現われ、「宮川少尉」だとみんなが叫び、同期の桜を歌うという映画の内容であつた。

この食堂でも遺書は涙なくては読めないものであつた。特に印象に残つたのは「この戦争は負ける、負ける事で日本は新しく生まれ変わる、その礎に自分達がなるのだ。それで本望じゃないか」と書いてあつたのものであつた。当時は検閲があつたのに何故こんな遺書が残つていたのかと思つた。又胸が熱くなつたのは文章の中に隠し文字が入つていて、そこを繋いでいくと「○○ちゃん、さようなら、あいしている」となつていた。検閲を逃れるためであつたのか、この文章には本当に泣けた。

娘もこの富屋食堂から帰ろうとせずに時間が過ぎても読み続けていた。ホテルに帰り寿司を食べたが鹿児島は全体に物価が安い。その後、久しぶりにカラオケルームで自分の子供の頃や青春時代の歌を8曲も歌つた。

翌日は鹿児島市の繁華街である天文館



で旅の本に載っていたラーメン屋に行っ
た。黒豚がてんこ盛りで、又50円単位で
黒豚が追加出来ると書いてあったのが面
白かった。ただ、以前来た時よりの天
文館通りにも人通りが少なく、鹿児島三
越も閉店となる事聞き、地方経済が疲
弊しているようだと実感した。名物の「む
じゃき」のかき米もお腹いっぱいいで
食べられなかった事は残念だった。

次に鹿児島歴史博物館に行った。西郷
さんを中心に維新の志士達の活躍が当然
ながら中心で、その中で合成された音声
や、本物そっくりのロボットによる劇は
面白かった。又、多くの維新の志士を生
み出した「鍛冶屋町」にも行ってみた。
そこでは数十軒単位で、その中年長者
が下の者の旗や教育、武道を教えるとい
う制度であり、そこから多くの偉人が出
たという事から教育とは何かを考えさせ
られた。ちなみに、私は司馬遼太郎さん
が好きだが、先生の説にもと南方から
の黒潮に乗ってきた「若衆制度」が、鹿
児島、高知、和歌山に伝わっており、そ
れが戦前の青年将校の決起の一因と言
われる。私は鹿児島歴史博物館を、そんな
観点からも興味深く見た。NHKの「篤
姫展」にも行ってみた。じっくり見なか
ったが私の体力は限界に近づいており、
少し見ては座るといふ状態であった。じ
つくりと見ることは出来なかったが、篤
姫の奥入れの調度品の素晴らしいさと、晩
年の確とした表情、姿を感じられた。又、
江戸城総攻撃を止めてくれるように書き
た「嘆願書」の古文、名筆を見た。一体

今の日本にこれほどの人がいるであろう
かとも感じた。夜ホテルに帰り、黒豚の
しゃぶしゃぶとカツオのたたきを食べ
た。どちらも美味しかった。カツオも美
味しいのは柱崎があるからだと思っ
知に負けず鹿児島県の食文化の豊かさに驚
いた。ホテルの壁面には何百種類の焼酎
が並んで左覚にはたまらぬ光景であ
ろが、自分には無縁であるのが残念だっ
た。

翌日には、昼から九州新幹線に乗るた
め午前中は市内観光をした。まずはホテ
ルの下の西郷隆盛の自決した洞窟を見
た。西郷隆盛の自決した洞窟を見た
という程度であった。次に南州公園に
向かった。西南戦争で亡くなった方
の墓が千以上はあるのか。西郷隆盛と桐野
利秋の墓を拜んでいると、ボランティア
の郷土史家が説明して下さったが、余
りに詳しく、余程、歴史に精通している人
でないと思えなかった。ただ思
われたのは「明治国家」自体が若い
ものであり、当時は20才前後で高い位に
つき、彼らが「明治国家」を大急ぎで作
ったのだと感じた。そこでも現代の若者は
……と年寄り根性を感じた。最後には、島
津家の庭園である「磯庭園」を訪ねた。
ここも雄大な桜島をバックに庭園が造ら
れており、結局、鹿児島県のシンボルが桜
島だとしみじみ思った。その磯庭園の中
には、土産物屋が多いのには、いささか
興ざめであった。道中、名物の「じゃ
ん餅」を買った。名前から大きな餅を
想像していたが、ひと口サイズの餅が2

本の串に刺さっていて、たれをつけて焼
いたみたら団子のようなもので美味し
かった。「じゃんぱ」と言うのは「両棒」
と書いて、中国では「両」を「りゃん」
と読むので「りゃんぱう」が「じゃんぱ
う」になっただけ。最後まで食べ歩きをし
て、ガイドブックに載っていたところ
系の鹿児島ラーメンを食べて帰路につい
た。

九州新幹線は熊本県八代まで、そこ
で特急に乗り換え博多に着いた。二年後
全線開通するらしいが、それまでは不便
である。

以上、2泊3日の鹿児島紀行は、5度
目にもかかわらず今回は特別な想いをめ
ぐらせ、時間と体力の許す限り行動した
り、食を楽しむ私にとっては非常に有意
義なものとなった。ますます鹿児島の魅
力にふれ、再び訪れてみたいと思ってい
る。



編集後記

あけましておめでとうございま
す。昨年の漢字は「愛」だということ
ですが、これまでも安全だと思われてい
た食品の安全性が問われ、地球の気候
も変化し異常気象が頻繁に起こってい
ます。経済も暗い話題が多い一年でし
た。一方ノール科学者を日本人が
受賞し、スノーボールでも世界と競える
だけの活躍を見せ良い変化も観られ
ました。そして和相会には、「ふたばの
街」という仲間も増えました。昨年に
引き続き「和」の心で頑張っていた
と思っています。

さて、この度も新年1号目となる
「ほっとニュースVol.21」を発行するこ
とができました。ご協力いただいた皆
様には深く感謝申し上げます。今後と
もよろしくお願いたします。

医療法人社団和相会の仲間たち

ふたば病院
介護老人保健施設 バナケイア
居宅介護支援事業所ふたば
訪問介護事業所ふたば
認知症対応型共同生活介護ふたばの家
生活訓練施設 ふたばの丘
地域活動支援センター ふたば
ふたば居宅介護支援事業所富原
ふたば訪問介護事業所富原
重度認知症患者ケア ふたばの森
短期入所生活介護事業所 ふたばの里
高齢者複合福祉施設 ふたばの街

ふたば病院

